

院side



もういくつ寝るとお正月。「来年こそは!」と思いを抱きながら様々な目標を立てているのではないのでしょうか。研究に、就活に、私生活に、読者の皆さまの2026年が実り多き1年になりますように! (本記事は2023年冬号を再編集の上、掲載しています。)

今月の特集

院生座談会

新年度から修士1・2年(以下、M1・M2と表記)になる皆さんは大学院生の研究や就活事情に不安や疑問もあるのではないのでしょうか。今回はもうすぐ大学院を修了される3人に、院生ならではの視点から研究や就活ついて、経験を語っていただきました。(座談会は2022年11月に実施。)

OUT 院生の就職活動

——就活の進め方やスケジュールについて教えてください。

- A: 就活を始めたのはM1の4月頃で、初めは文系就職を目指していました。しかし就活を進めるうちに考えが変わり、M2の3月頃から理系就職に切り替えました。初内定はM2の4月中旬、最終的に入社先を決めたのは7月です。
- B: 私は理系院生向けのオファーサービスを使って情報収集を進め、インターンなどに参加していました。時期としてはM1の5月頃に始めて、3月頃には終わりました。
- C: 私はもともと都市計画や開発に興味があり、そういった仕事を見据えて大学院に進みました。時期としてはM1の4月頃から始めて、9月に最終的に入社を決めた企業から内定を頂きましたが、その意思決定をしたのは12月でした。

——就活中の研究と就活の比重を教えてください。

- A: 就活は2割。理系就職についてもっと早くから調べておけばよかったなあと思います。
- B: 就活は8割。インターンへの参加のしやすさは研究室の雰囲気、教授の理解にもよると思います。
- C: 就活は9割。早めに終わることができたので、その後の研究ではだいぶゆとりを持つことができました。

●「研究コン」まもなく開催!

研究科・院生交流会
研究コン 2023

12/12(金) 18:30から北部食堂2階にて、院生同士の交流を目的とした企画「研究コン」を開催します。奮ってご参加ください。(申し込みフォームや企画の詳細は、Xなどで随時発信しています。)

A: M2、理学研究科

B: M2、情報学研究科

C: M2、人間・環境学研究科

OUT 研究・修論の進め方

——今、修論はどういった状況ですか?(11月現在)

- A: 提出は1月中旬頃で、今は結論につなげるための根拠探しなどを行っています。いつでも書ける部分は早めに書き始めています。
- B: 私の研究室では、修論はこれまでの研究を最後にまとめるような位置づけにあり、まだ執筆は始めていません。
- C: 1月初旬の提出に向けて約1か月で書く予定です。

——研究活動はどのように進めていましたか?

- A: M1になったばかりの頃は器具の扱いに戸惑い、研究がうまくいかないこともありましたが、慣れてからは順調に進んでいます。
- B: 学部時代に研究でお世話になった先輩が研究室を出てしまった時は苦戦しました。どんどん発表させる研究室なので、卒論の内容を国内外の学会で発表しました。
- C: 研究事例を定めたのはM1の夏頃でしたが、修論としてまとめる方針が固まったのはM2の夏頃でした。私の研究室は発表があまり盛んではない印象です。学部時代と研究内容が異なる院生が多いという理由もあるかもしれません。

——最後に、後輩へアドバイスをお願いします。

- A: 就活に力を入れるなら、特に情報収集は後悔のないよう頑張ってください。院試が終わってから少しずつ情報収集を進めてもいいと思います。
- B: 不安があっても、分からないなりに最善を尽くしていけば大丈夫です。今B4の方は、もうすぐ卒業して会えなくなる友達と会っておくといいと思います。
- C: 院生生活では、色々な属性の人と会い視野を広げる機会があると思います。修士2年間で何か1つに集中するのか、色々なことに手を出してみるのか、今のうちに考えてみてはいかがでしょうか。